

第5回 品川区学事制度審議会 会議録(要旨)

日 時:平成 29 年 2 月 7 日(火) 9:30~11:30

場 所:品川区立豊葉の杜学園 北棟 被服室

出席者:

委員	(出席委員) 名和田委員長、窪田副委員長、樋口副委員長、矢野委員、三瓶委員、 小宮委員、巻島委員、秋廣委員、木下委員、矢田委員、佐藤委員、山口 委員 (欠席委員) 保科委員、高林委員、村田委員
区側 出席者	中島教育長、本城教育次長、品川庶務課長、篠田学校計画担当課長、 有馬学務課長、村尾教育総合支援センター長、木村品川図書館長、山 本統括指導主事、中山企画部長、市川企画調整課主任、堀越地域振興 部長、若生学校計画担当主査

1 開会

2 委員長あいさつ

3 学校視察

4 議事

(1)品川区立学校の学区域について

(事務局より説明)

委員:

- ・ 義務教育学校についての課題を整理した上で、学区域の議論を進めるべきではないか。

事務局:

- ・ 義務教育学校も学区域を持っているため、義務教育学校固有の問題について同時に議論すると全体の学区域の整理が難しい。今回はあくまで義務教育学校の現状を踏まえて大枠の方向性を整理し、その後に義務教育学校固有の問題について議論いただく予定である。
- ・ 中間答申の段階では、学区域や義務教育学校、学校選択制などについて、それぞれに関連する部分の整合性を持たせた形で改めて全体を整理していきたい。

委員：

- ・ どちらが先ということではなく、義務教育学校固有の問題を織り込みながら学区域の議論をしないと、後でまとめるのが難しくなる恐れがある。

委員：

- ・ 小中一貫校の開校当初からしばらくは保護者や町会も混乱したが、10年近く経った今では学区域に慣れてきている。
- ・ 今後また学区域を変更して混乱することなどがないようしっかり議論し、この先何十年も変更しなくて済むよう学区域を固めるべきと考える。

委員長：

- ・ 議論順をどう組んでも同じ問題は生じるため、義務教育学校の学区域も念頭に置きながら、学区域の基本的な考え方について議論を進めていきたい。

委員：

- ・ 教育の中身という観点から、一つの中学校に二つか三つの小学校までの連携を基本としてはどうか。
- ・ 基本として連携する母体の学校を決めておけば、いろんな面で連携しやすくなり、一貫教育を推進する上で非常に良いと思う。

委員：

- ・ 学区域に関する基本的な考え方については、中学校の学区域を調整して小学校の学区域を包括するという事務局案の方向性で良いと思う。
- ・ ただし、個々で見えていくと一筋縄ではいかないところがあるので、そのあたりをどう調整するかがこれから先の話になると思う。

委員：

- ・ 資料の「共通学区域」の説明では、対象者は「どちらの学校も選べる」「選んだ学校には必ず入学できる」ということになっているが、そのように書いてしまうと、選んだ学校に偏りが生じた結果、教室が不足する恐れがある。

委員長：

- ・ 学校選択制によって、学校同士が切磋琢磨する意識が高まっている状況下で、「共通学区域」の選択肢のどちらか一方の学校が全ての方に選ばれるとは考えにくい。適当にばらつきが生じる前提で政策を考えて問題ないと思う。

委員：

- ・ 大規模住宅増に伴い中途入学する場合は、通常は学区域の制限があるが、「共通学区域」を設けることによって過度な集中を多少回避できるのではないか。
- ・ 新入学時点では何らかの仕掛けが必要で、例えば、兄弟枠は最優先にするが、定員に達した場合はもう一方に決まるなどということも考えられる。

委員：

- ・ 事務局案の基本的な考え方に沿って学区域を整理することにより、コミュニティ・スクールを立ち上げた意味や考え方とも整合するのではないか。

委員長：

- ・ ここで学区域についてまとめたい。
- ・ 義務教育学校のあり方という点で大きな問題が含まれる。

- ・ 「共通学区域」についてはもう少し細かい仕掛けが必要である。
- ・ 地域との関係からも教育上の観点からも、中学校の学区域が小学校の学区域を包含することが適切であるという方向性については概ね一致が見られた。
- ・ 今後、義務教育学校や学校選択制などを議論した後に、中間答申をまとめるためにもう一度振り返って議論することを留保しておき、現段階でこの基本的な考え方を了承するというところでよろしいか。

(異議なし)

委員：

- ・ 「共通学区域」という考えには賛成だが、「学区域」と言ってしまうと必ず入れると思われる恐れがある。「調整区域」などの表現のほうが無難だと思う。

(2) 「品川区の教育政策に関するアンケート調査」集計速報について

(事務局より説明)

<アンケートの回収状況>

対象：品川区民（品川区全域を対象）2,000人を無作為抽出

回答数：571（回答率28.6%）

※今後、詳細な分析を加えた報告書を作成・公開予定

5 その他  
特になし。

6 連絡事項  
次回(第6回)は、3月16日(木)に開催予定。

7 閉会

以上